

令和6年度 磐子工業高等学校（定時制）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）	公務外非行の防止徹底を図る。	公務員倫理意識の徹底などを推し進め、啓発資料での確認や不祥事に係る記事を掲示するなど職員の法令遵守意識の向上を図った。特に、若手職員に対しては、管理職のみならず、学校全体で育成するという意識を職員に持たせ、基本的事項を繰り返し、徹底的に指導し、法令遵守意識の向上を図った。
セクハラ・わいせつ行為	セクハラ・わいせつ行為などを未然に防止する。	全体に対して日頃から自分事として捉えるよう繰り返し指導し、教育公務員としての自覚とモラルの向上を図ってきた。また、啓発資料や新聞記事をもとに、6月には生活・生徒会班主催の研修会を開催するなど研修会を複数回実施し、人権意識の向上に努めた。携帯電話・電子メールの適切な使用については、あらためて周知を徹底した。
体罰・不適切指導	生徒の人権を尊重し、体罰・不適切指導の発生を未然に防止する。	事例等の啓発資料を配付し、校内ネットワークの掲示板でいつでも資料を閲覧できるよう工夫するとともに、9月には生活・生徒会班に主催の研修会を実施した。また、人権教育研修会などの機会を通じて、不適切な指導の未然の防止に努めた。またこのような事態が報道された際には他県の事例であっても取り上げ、注意喚起を促した。
適正な経理処理（備品の現物照合、公費・私費・現金管理）	会計の取扱い方法を検討、整理し、現金等の取扱いも含めた会計に係る事故を未然に防止する。また、備品の現物照合を徹底する。	私費会計基準をあらためて周知し、必要に応じて会計事務処理の改善・工夫を行うとともに、考えられる工夫・改善点については、不祥事防止研修会を通じて全員で共有し、会計処理の正確・迅速・円滑な遂行について再確認を行った。また、備品の現物照合については、複数名で点検を確実に行い、台帳との現物照合を徹底した。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	組織としての情報管理体制を構築し、個人情報の流出を未然に防止する。	5月には管理職より啓発資料に基づき、個人情報の取り扱いについての確認を行った。また、10月には教務班主催で、試験問題の管理や答案の誤廃棄防止にかかる研修会を実施した。特に、個人情報の漏洩や流出が起きないよう管理状況（パスワードの設定、誤廃棄防止）を適宜点検・確認を行うとともに、携帯電話・電子メールの適切な使用について周知徹底した。

交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	酒酔い・酒気帯びを含む交通違反・交通事故の発生を未然に防止する。	11月に総合・総務班主催で職員啓発資料などを活用し、交通規範の遵守にかかる研修を実施した。
業務執行体制の確認（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	情報共有、相互チェック体制、業務協力体制などを適切に推し進める。また、政治的中立性を厳守する。	5月に管理職より服務について資料を配付し、服務規律の徹底を図った。また、7月にはキャリア班主催で研修会を開催し、成績処理、進路関係書類作成業務、入学者選抜業務における事故の防止を所属職員全員で確認し、徹底をはかった。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

事故・不祥事の根絶は、職員一人ひとりが当事者意識を持ち、自らが主体的に考え、行動することが大事である。昨年度に引き続き、令和6年度も教職員に対しては不祥事防止会議や研修会のほか、始業時の打ち合わせ、業務の報告・連絡・相談の中で日頃から継続的に指導し、再認識させた。

また、不祥事ゼロプログラムに沿って、グループの班が主催者となって不祥事防止研修会を実施し、資料を配付して説明するだけではなく、いつでも資料を閲覧できるように校内ネットワークの掲示板にさまざまな不祥事防止にかかる資料を掲載し、基本的な事項を含め何度も確認を行った。

特に、セクハラ・わいせつ行為や体罰・不適切な指導については、1年を通じて繰り返し注意喚起を促し、教職員としての自覚をもって行動・生活することの大切さを説き続けるとともに、今年度は、行政課と連携して有効な不祥事防止に係る研修についての意見交換を行い、職員全体に対してアンケートも実施した。

これらのことを行った結果、不祥事につながる事象は起きたことがなかった。

令和7年度についても、令和6年度の取組を一層充実させ、教職員のさらなる意識啓発に努めるとともに、本校から不祥事を絶対に出さないという強い意志を持ち、引き続き全職員一丸となって不祥事防止に全力で取り組む所存である。